

大菩薩 小室川谷

2008年8月23~24日

L白土、菊地、志満、金井、山口（記録）

2月に入会したものなかなか休みがあわず今回の沢登りは4月以来、あわせて初の泊まりでの沢登りとなった。

前夜、厚木と相模湖でメンバーと合流し奥多摩湖周辺の休憩所でテント泊。

23日、天気は曇り。青梅街道を走り三条新橋に到着。林道入口にはゲートがあるが開いていた。このまま車で行けば林道歩きは省略できるが帰りに開いているかは判らないので林道入口近くのスペースに車を止め林道を歩く。およそ30分で泉水谷に降りる踏み跡があるが一度通り過ぎてしまい引き返して木の橋を渡り7時50分、小室川谷出合から入渓する。

しばらく歩くと3mと4mの滝が現れる。両方とも左岸が簡単に登れるが右岸でも可能。その先の8mの滝も左岸が登れる。そのあとはゴロ歩きと小さな淵がいくつか現れその先にS字峡3段8mの滝となる。



S字峡一段目を登る

一段目は釜で腰まで水に浸かり冷たさに思わず息を飲む。滝の右を回り込むように登る。その先は濡れながら突破、ここから先は小滝の連続する沢を行く。

8月は暑い日が続いていたので濡れながら涼をとる沢歩きを期待していたが、あいにくの曇り空でどちらかと言えば積極的には濡れたくない気分。しかし白土さんのルート取りは流水を直登と男らしく、自分は後ろからついて行くがあまり濡れないラインを探しては歩く。

4mの滝は右岸にハーケンがいくつか見えるが見る限りホールドが続かない、手前右岸のほぼ垂壁に残置ロープがあるのでよじ登り巻く。逆行図にある石門は見落としてしまったようだ。

その先に小室ノ淵が現れる。最初の大きな釜を持つ滝は白土さんが泳ぎで右岸から。金井さん、菊地さんも泳ぎで渡りついに自分の番になった。初めての沢での泳ぎで、水に浮かんだとたんザックでヘルメットを押され前が見えなくなってしまい急いで引き返した。今度はヘルメットを外してどうにか釜を渡り、滝を登る。次の滝と釜は突破できそうもない、右岸の壁の凹部分を登って巻く。小室の淵を越えと中ノ沢の出合となる。

釜を持つ滝と淵をいくつか越えていくと2段4mの滑滝、ここは地層の縞模様が美しい。その先の10mの滝は左岸を巻く。巻いていると眼下に美しい4段30mの滝が現れる。斜面を下り沢床に下りる。ここは左岸に行くが4段目の最後が少し悪いが残置ロープがある。



4段30mの滝

2段20mの滝は左岸を巻く。その先は12mの滑滝、白土さんは釜を泳ぎ滝の中央を突破するが右岸の方がやさしそう。自分も途中から中央に移って登ってみるがかなりツルツル、もう駄目だ、と思ったときには時すでに遅く、ウォータースライダーで釜にダイブ、ずぶ濡れになってしまった。



12mの滑滝

15時30分頃、ジャヌケ沢出合に到着、今日はここをテント場とする。小雨が降っていたが、焚火をして濡れた服を乾かす。菊地さんの持ってきたシートのお陰で濡れることなく快適な焚火だった。

24日、天気は雨。7時30分発、滝をいくつか越えるとだんだん溪も荒れてくる。流れ

それでもかなり上まで続く。稜線には10時5分に到着。ガスが出ていて景観はない。下りは前日午後から降る雨のため、当初の予定の大黒茂谷ではなく登山道を下りる。道は整備されていて小さな沢にかかる橋も新しいものが多い。丸川峠を経て下りるがいくつも登山道(作業道?)があり標識もないため分かりづらい。17時に駐車に着く。はじめての泊まりの沢はやはり良いものだった。沢での焚火と食事(金井さんと志満さんのおかげで)と酒は最高だった。

コースタイム

- 23日 7:00 駐車場~7:50 小室川出合~12:00 中の沢出合~15:30 ジャヌケ沢出合テント場
- 24日 7:30 テント場~10:15 稜線~17:00 駐車場

参考 東京周辺の沢(白山書房)
地図 丹波、柳沢峠、大菩薩峠